

令和8年度 研究概要

所属名		研究会議名
情報・視聴覚センター		個別最適な学び（情報・視聴覚センター）研究会議
年次	1—1	担当責任者（天正 裕史） 担当指導主事（榊原 洋介・中尾 有希・金子 裕輝）
研究員	久我 光希（ 殿町小学校 ）	
	岩田 孔（ 宮前平小学校 ）	
	小野 雅史（ 南河原中学校 ）	
研究主題	次期学習指導要領を見据えた情報活用能力チェックリストの作成に関する研究 —情報活用能力を発揮し、主体的に学習に取り組む児童生徒の育成を目指して—	
資質・能力 育成を目指す	情報活用能力を発揮し、主体的に学習に取り組む姿	
研究内容	<p>昭和61年の臨時教育審議会第二次答申では、「情報及び情報手段を主体的に選択し活用していくための個人の基礎的な資質（情報活用能力）」を、読み・書き・算盤に並ぶ基礎・基本と位置付けており、これは現在の情報教育の基本的な考え方になった。平成18年には文部科学省の報告書「初等中等教育の情報教育に係る学習活動の具体的展開について」で、現在の情報活用能力の体系表につながる3観点8要素が示された。このような国の動向を踏まえ、川崎市でも樋口らが平成24年に「情報活用能力チェックリスト」を開発した。その活用に関する先行研究は、川崎市の児童生徒の情報活用能力の育成に大きく寄与してきた。</p> <p>一方で、令和7年5月の教育課程企画特別部会は、現在の情報教育を取り巻く課題にふれたうえで、「学校教育においても情報活用能力が系統的に指導されておらず、その育成が十分とは言い難い」と指摘した。また、令和8年4月に川崎市のGIGAスクールリーダーを対象に行った調査でも、「情報活用能力チェックリストをGIGAスクール構想推進計画の作成に役立っているか」の質問に対して33.1%の教員が否定的な回答であった。このような現状から、これからの時代に求められる情報活用能力をより体系的に育成する必要があると考え、研究主題を「次期学習指導要領を見据えた情報活用能力チェックリストの作成に関する研究—情報活用能力を発揮し、主体的に学習に取り組む児童生徒の育成を目指して—」とした。</p> <p>本研究会議では、令和7年10月に教育課程部会情報・技術ワーキンググループから出された「情報活用能力として育成すべき資質・能力の体系的な整理」をもとに、新しいチェックリストの作成を目指していく。検証Ⅰ期は、検証授業を通じて既存のチェックリストの各項目の内容や活用上の問題点を見出し、予備調査用チェックリストの作成を進める。検証Ⅱ期では、予備調査用チェックリストの活用が、情報活用能力を発揮した主体的な学びに結びついていitかを検証し、不足部分の項目について検討を行う。これら本研究の成果を、最終的に「情報活用能力チェックリスト2026」の作成に役立てていきたい。</p>	